

スクールホットライン

メディア時間の取組と学校保健委員会

from 新栄小学校

本校では「テレビ、インターネットなどのメディアに関わる時間をコントロールし、目標時刻に就寝できる子の育成」

を目指し、平成二十七年より、メディアに関わる時間についての取組を始めました。その成果と課題を、二月十七日の第二回学校保健委員会にて報告しました。

取組の結果、「メディアに関わる時間を意識するようになった」、「意欲的に元気UPカードに取り組んだ」という成果があげられました。しかし、「就寝時刻の遅さが目立つ」「メディアに関わる時間を減らすように生活のリズムを変えるのは難しい」という課題も見つかりました。

また、講師として豊山中学校養護教諭の吉田先生と学校医の金森先生をお迎えしました。吉田先生には、「中学生の生活習慣と心の健康」について話していただきました。その結果、「8時間以上寝ていると、疲れが残りにくいこと」「しっかりと寝ている子ほど心が健康であること」の二点がデータより明らかになりました。

金森先生には、メラトニンの働きとともに、「睡眠不足のため、自律神経が乱

れている児童が多い」という現状について、詳しく教えていただきました。

今回の学校保健委員会を通し、生活習慣の大切さを伝え続ける必要性を強く再確認しました。

児童が、生活習慣を「見直し、改善し、継続する」という3ステップを踏んで、健康な人生を歩んでいけるよう、今後も家庭や地域と協力して取り組んでいきたいと思います。



史料から ひもとく 豊山

第①回

今月号から、新企画として「史料からひもとく豊山」を掲載します。郷土資料室に保管されている資料を通して豊山町の昔を見ていきます。

郷土資料室は、社会教育センターの二階にあります。豊山町を支えてきた農業、養蚕、竹細工等の生業用品、日々の生活用品、昔の文書や本など、郷土ゆかりの品が展示保存されています。また、郷土資料室の入口には、時節に合った郷土の文化を伝えるパネルも掲示しています。さらに、機会を設けて企画・特別展を開催していきますので、ぜひお立ち寄りください。

今回は、文書資料から「明治三十九年度歴史科教授細目」をご紹介します。

ある教師の授業記録で、北部高等学校四年生の学習内容が「建武の中興」に始まり、明治時代まで四十

週にわたって記してあります。当時、明治についてはまだ現在に相当しており、「明治二十七・八年戦役」と、日清戦争で終わっています。

この頃には、歴史的出来事だけでなく、戦国大名が列記されるなど、多くの人物について詳しく学んでいたことが推測されます。

なお、北部高等学校は、明治二十年設立の「西春日井郡十四ヶ町村立西部高等学校」が、児童数の増加により東部・西部・北部の三校に分割され、当時の六ツ師村に同二十五年十月に設立され、同四十一年三月二十五日に廃校になった学校です。豊山村の児童は、翌二十六日、豊山尋常小学校に高等科が併設された、豊山尋常高等学校に引き継がれました。

〈参考〉『豊山町史』

『書窓』平成22年4月号

